

● 「札幌国際芸術祭 2014」について

札幌国際芸術祭 2014 に出品された、アーティスト島袋 道浩（しまぶく・みちひろ）氏の作品「一石を投じる」を、現在の展示場所である北 3 条広場から札幌市資料館前庭に、10 月 28 日に移設し、展示を継続します。

これは、芸術祭のテーマ「都市と自然」を象徴する同作品を芸術祭初開催の記念として札幌に留めることにより、芸術祭終了後も市民らに芸術を身近に感じてもらい、次回の芸術祭の開催に向けた機運の醸成につなげることを目的としたものです。

同作品の展示は、次回の芸術祭開催までの 3 年間で予定しています。

1 「一石を投じる」の展示の継続について

(1) 目的

札幌国際芸術祭 2014 のテーマ「都市と自然」を象徴する島袋 道浩氏の作品「一石を投じる」を芸術祭初開催の記念として札幌に留めることにより、芸術祭終了後も市民らに芸術を身近に感じてもらい、次回の芸術祭開催に向けた機運の醸成につなげる。

(2) 設置場所

札幌市資料館「前庭」(中央区大通西 13 丁目)

(3) 設置日時

・ 10 月 28 日 (火)

12 : 00 ~ 北 3 条広場にて移設作業開始

14 : 30 ~ 資料館前庭にて設置作業開始

※ 作業には島袋氏が立ち会います。

作業中は、取材への対応はできませんが、設置作業終了後
(16 時 30 分ごろから) 取材に応じます。

なお、作業の進み具合により、時間が前後する場合があります。

(4) 設置期間

次回芸術祭までの 3 年間で予定

(5) 作品「一石を投じる」について

島袋 道浩氏による芸術祭作品。日高管内平取町二風谷にあった、重さ 10 数トンの自然石を札幌市内に運び、道庁赤れんが庁舎前の北 3 条広場に展示したもの。

この作品について島袋氏は、「直線的で人工的な札幌という都市に、有機的で自然そのものの大きな石を持ち込み対比させてみる。人々は最初、違和感を感じるかもしれないが、実は異質なものが同時に存在するこの状況こそ調和といえるのかも」、そして「芸術作品を発表するという事は正に一石を投じること」と語る。



▲ 「一石を投じる」 photo:Keizo Kioku

<参考：島袋 道浩（しまぶく・みちひろ）>

1969 年生まれ。

1992 年、アメリカ、サンフランシスコ芸術大学卒業。

2005-2006 年、ドイツ、ブラウンシュワイグ芸術大学客員教授。

2014-2015 年、スイス、チューリッヒ芸術大学客員講師。

1990 年代初頭より世界中の多くの場所を旅しながら、そこに生きる人々の生活や新しいコミュニケーションのあり方に関するパフォーマンスやインスタレーション作品などを制作している。



島袋 道浩の行動や行為に対する「なぜ？」が生まれ、その答えを人それぞれにもたらず。またそれぞれにそれぞれの答えのあることを許すといった楽しみのある体験、自由で寛容な状況は強く人々を惹き付け続けている。近年はドイツのベルリンを拠点にヨーロッパで数多く作品を発表している。

パリのポンピドゥ・センター、ロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展や 2003 年ヴェネツィア・ビエンナーレ、2006 年サンパウロ・ビエンナーレなどの国際展に多数参加。2013 年には金沢 21 世紀美術館やイギリス、バーミンガムのアイコン・ギャラリーで個展を開催。2014 年にはスイスのクンストハーレ・ベルンやカナダ、バンクーバーのコンテンポラリー・アート・ギャラリーでの個展を予定している。作品はパリのポンピドゥ・センターやモナコの国立美術館、アメリカのヒューストン美術館、大阪国立国際美術館、東京都現代美術館、金沢 21 世紀美術館などに所蔵されている。

問い合わせ先

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局

(札幌市観光文化局国際芸術祭担当) 小倉・山田

電話：211-2314